

つどい

第 444 号
2025.10.1発行・豊中歴史同好会
責任者 小川 滋

〈聖徳太子歿後一四〇〇年によせて〉
聖徳太子の実像を探る 上 塚口 義信
五色塚古墳とその周辺の遺跡を尋ねる
(午後半日コース) 木村 幸子

〈聖徳太子歿後一四〇〇年によせて〉 聖徳太子の実像を探る 上

堺女子短期大学名誉学長・名誉教授 塚口 義信

はじめに

- 一 聖徳太子の活躍した時代
- 二 『日本書紀』に描かれた聖徳太子
- 三 聖徳太子の政治的立場
(以下は下・次号)
- 四 『日本書紀』と『隋書』の倭王
- 五 聖徳太子と蘇我馬子の共同執政
むすびにかえて

はじめに

厩戸王(厩戸皇子)やや後の名前ですが、
うまやと

以下便宜上、聖徳太子の称を用います)は六世紀後半に生まれ、七世紀初頭にかけて活躍した人ですが、西暦七二〇年(養老四)に完成した『日本書紀』(以下『書紀』または『紀』と略す場合もあります)によれば、六二一年(推古二十九)の二月五日に亡くなったと伝えられています。しかしながら、この薨去の年月日は疑わしいとされています。なぜかといえば、聖徳太子の伝記としてよく知られている『上宮聖徳法王帝説』所載の「法隆寺金堂坐釈迦仏光後銘文」や「在法隆寺藏繡帳二張縫着亀背上文

字」(天寿国繡帳銘)、『聖徳太子伝私記』に引く斑鳩の法起寺塔婆露盤銘などによると、太子の薨日は六二二年(推古三十)二月二十二日とあり、研究者の多くはこの所伝を正伝と考えているからです。私もこの説を支持しています。

そうだとすると、昨年(二〇二二年)は聖徳太子歿後一四〇〇年の節目の年に当たっていました。だから、各地で法要や講演会が行われていたのです。そこで私も後れ馳せながら、その一つに加えていただきたいと思い、本日のような演題にさせていただいた次第です。

一 聖徳太子の活躍した時代

聖徳太子が活躍していた時代は、世界史的にみると、どのような時代であったので